



共生の時代

'09
4月

●発行: グリーンコープ共同連合会 ●編集: 共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



社会福祉法人さざなみ福祉会
精神障害者小規模通所授産施設
さざなみ第2作業所 施設長

大塚 郁子 さん

22 歳で結婚後、約20年間組合員活動をしてきた。当時は利用普及活動で配送トラックに乗るの当たり前。職員と大塚さんと3人の子どもと一緒にトラックで到着すると、「今日は家族全員で来たからね?」。生協のセールスレディーだった、と振り返る。そんな大塚さんが組合員活動から離れた時期があった。1995年から1年間沖繩に母子だけで暮らしたのだ。知人の甥が離島に山村留学した話を聞き、当時小学6年生の二男が行きたがったが受け入れ家族がない。「それなら、みんなで沖繩に行ったらいい。若い頃から大好きな沖繩。すぐ行動に移す。那覇市に家を借り、二男、三男、大塚さんの3人で沖繩生活がはじまった。中学生の長男は部活、夫は仕事で福岡に残った。学び遊ぼうと環境問題、平和運動に参加し、歴史、文

化を訪ね、合間にダイビングや陶芸、三線を習った。三線は沖繩民謡新人賞を取るほどの腕前。福岡に戻った頃、すぐ近所に「さざなみ作業所」が開設された。1996年のことだ。てんかんが「障がい」としてやっとなに認められ、支援や自立に光が見えはじめた時期だ。その初代所長と大塚さんは組合員活動で知りあった旧知の仲。また、きょうに福岡で開催された際、グリーンコープ北ブロック(現ふくおか)組合員事務局だった大塚さんは、大会を手伝ったことで障がい者や共同作業所と出会った。てんかんのわが子と一日中作業所で過ごす初代所長の大変さを身近に感じ、気分転換になればと「お茶飲みに来たよ」と大塚さんは時々作業所に顔を出しているうちにボランティアにも通うようになった。その後利用

者が増え、さざなみ第2作業所の開設の話が。1998年職員にならないかと誘われ、施設長に。それから10年がたった。現在利用者は15人。てんかん、高次脳機能、精神、知的な障がいを持っている。わずかな障害者年金だけの生活は困難だ。「自立した生活に必要な収入一人月5万円をめざそう」。持ち前の行動力でリサイクル店、ハウスクリーニング、こだわりの手作りパウンドケーキなどを売る。「まるまる屋」の事業を展開。作業所に通うなかまと製造から販売まで多忙な毎日だ。「長年組合員活動をしてきたことからつながる『縁』は心強い支えなんです。地域の人や多くのなかまに助けられて『お陰様』で成り立つことを日々実感する」という。「やりたいことや夢はいっぱいある。もうすぐ帰ってくる夫と一緒に歩んでいきたい」。満面の笑みが眩しい。

※全国共同作業所連絡会

各会員生協で 自生GMナタネ汚染調査活動 実施中



食べない! 作らない! 作らせない!
調査監視活動、今年で5年目です

人がいて、私がいいて、夢がある

Contents

シリーズ ホームレス問題を考える 1	
自立生活援助ホーム「抱樸館 下関」から見えるホームレス問題	2
うちのメーカー・うちの生産者 ⑧	
柿木村有機野菜組合 産直小ねぎ	3
グリーンコープ自慢の食パンがさらにおいしく生まれかわりました	4・5
☆グリーンコープのこだわり再発見	
無蛍光…、自然な綿の色にこだわり続ける	6
グリーンコープ青果生産者の会2008年度技術交流会	
学び、交流を深めよりよい作物作り	7

組合員活動をはじめ10年が経過する。せっけんと合成洗剤の違いも知らなかった私が随分成長したと感じる。これも多くの学習の場を経験させていただいたお陰である。知れば知るほど好きになるグリーンコープは不思議な魅力で溢れている。特に人と人の関係は大切に難しい。私はその魅力に一番惹かれていくのかもしれない。出会いや別れを繰り返して人は成長する。私自身

送 信

も、多くの出会いや別れを経験した。苦しい時には皆に相談し解決できた。楽しいことはみんなで共有し笑った。そんな日常が私をさらに前進させているように思う。昨年はずいぶん経験をたくさんした。同時に多くの人に支えられていることに気づかされた。「経験は財産」そう思える日々感謝したい。グリーンコープをこま生協理事長 川原 ひろみ



北九州市にある勝山公園で路上生活をしてきたホームレス者が住んでいた「家」

自立生活援助ホーム 「抱樸館下関」から見える ホームレス問題

ホームレス問題を考える I

格差や貧困層の拡大がすすみ市民社会が荒廃しつつある中、それに輪をかけるかのようにアメリカのバブルが弾け世界経済は一気に恐慌へ突入しました。日本でも派遣切りや雇用の打ち切り、学生の就職内定取り消しなど、先行き不透明な様相はますます厳しくなっています。誰もがいつでも会社を追われ、家を追われ、路頭に迷い、野宿生活者になっても不思議ではありません。今や「ホームレス問題」は他人ごとではないのです。

グリーンコープはかねてよりNPO法人北九州ホームレス支援機構(代表奥田知志さん)を支援しています。その一つである自立生活援助ホーム「抱樸館下関」を取材し、「ホームレス問題」を追ってみました。



抱樸館下関入居者の部屋。家賃・食事費・その他雑費など生活保護費から払って生活をしている

2006年1月、夜半に起こった下関駅放火事件。その事件がきっかけとなって一気に進展したことがあります。ホームレスの自立支援を目的とした「抱樸館下関」の開設です。

放火したホームレスは75歳の老人。刑務所を出所したばかりで身寄りもなく市役所に相談に行っても相手にされなかったそうです。奥田さんは、「野宿状態を脱するために刑務所に入るしかない」と思い放火した」という彼の言葉で抱樸館の開設を決断したと言います。放火は決して許されることではありません。しかし、今の社会が彼を受け入れることができなかつたことも事実です。

奥田さんは「彼のホームになりたい」と、服役中の彼と手紙のやり取りをしています。彼を一人の人間として迎えるために。

元ホームレスが人として生き直すために「抱樸館下関」は築43年の元旅館を使っています。古い作りですが、木の温もりが残り心地よい趣を醸し出しています。2007年4月に開設されて今年で丸2年。現在、23人の入所者が野宿生活から自立することをめざして日常生活を営んでいます。



抱樸館下関の館長・秋本充さん

1階フロアは入所者が共同できる場として改装しました。食事を共にするのはもちろん、一緒にテレビを見たり、語りあったり、入居者同士が触れあえる空間となっています。食事の席が一定回数でローテーションされ、いろいろな人と話ができるよう配慮されているのも抱樸館下関の長です。

抱樸館(ほうぼくかん)の由来

みんな抱(いだ)かれていた。眠っているに過ぎなかった。泣いていただけだった。これといった特技もなく力もなかった。重みのままに身を委ね、ただ抱かれていた。それでよかった。人は、そうしてはじまったのだ。ここは再びはじまる場所。傷つき、疲れた人々が今一度抱かれる場所—抱樸館。

人生の旅の終わり。人は同じところへ戻ってくる。抱かれる場所へ。人は、最期に誰かに抱かれて逝かねばなるまい。ここは終焉の地。人がはじめに戻る地—抱樸館。

「素を見し樸を抱き」—老子の言葉。「樸(ぼく)」は荒木(あらぎ)。すなわち原木の意。「抱樸」とは、原木・荒木を抱きとめること。抱樸館は原木を抱き合う人々の家。山から伐りだされた原木は不格好で、そのままではとても使えない。だが、荒木が捨て置かれず抱かれる時、希望の光は再び宿る。

抱かれた原木・樸は、やがて柱となり、梁となり、家具となり、人の住処となる。杖となり、楯となり、道具となって誰かの助けとなる。芸術品となり、楽器となって人をなごませる。原木・樸はそんな可能性を備えている。まだ見ぬ事実を見る者は、今日、樸を抱き続ける。抱かれた樸が明日の自分を夢見る。

しかし樸は、荒木である故に少々持ちにくく扱い辛くもある。時にはささくれ立ち、棘とげしい。そんな樸を抱く者たちは、棘に傷つき血を流す。だが傷を負っても抱いてくれる人が私たちに必要なのだ。樸のために誰かが血を流す時、樸はいやされる。その時、樸は新しい可能性を体現する者となる。私のために傷つき血を流してくれるあなたは、私のホームだ。

樸を抱く—「抱樸」こそが、今日の世界が失いつつある「ホーム」を創ることとなる。ホームを失ったあらゆる人々に呼びかける。「ここにホームがある」、「ここに抱樸館がある」と。

ここから自立していった人がスタッフとして協力してくれるようになることはホームレス支援運動の目的でもありません。本当の意味でホームレスの辛さや孤独を知り尽くしているのだから、それに勝るものはありません。そこを助けあいの原点だと言えます。

野宿では住所不定で受けられなかった生活保護費が抱樸館下関に入所したことを受けられます。その中から家賃や食費を支払ってもらいますが、極力入所者の手元に自立のための資金が残るようにしています。しかし、公的な補助もない中で、共に自立プログラムに携わるスタッフの手当でなくても捻出しなければならず、その運営は中々に厳しい状況です。

「ホームレス」とは、物理的な家(建物としてのハウス)ではなく精神的な心の拠り所のこと。人と人の関係や家族関係などがそれを育みます。「ホームレス」とはそのような関係を喪失していることなのです。「何より辛かったことは、話す人もなく一人ぼっちだったこと」と元ホームレスの人は言います。人との関係を絶つて生きることは人間としての尊厳さえ失うことなのだとも。住む所さえ手当てすればよいという話ではありません。

また、全国的に後を絶たない子どもたちによるホームレス襲撃事件。中高生が

「ホームレス」と「ハウスレス」は違う

「ホーム」とは、物理的な家(建物としてのハウス)ではなく精神的な心の拠り所のこと。人と人の関係や家族関係などがそれを育みます。「ホームレス」とはそのような関係を喪失していることなのです。「何より辛かったことは、話す人もなく一人ぼっちだったこと」と元ホームレスの人は言います。人との関係を絶つて生きることは人間としての尊厳さえ失うことなのだとも。住む所さえ手当てすればよいという話ではありません。

北九州ホームレス支援機構のミッションに連帯する

グリーンコープは生活再生事業の一環として、現在福岡県と共同で多重債務者からの相談を受けています。この事業からも、人が多重債務に陥る原因は自己責任ではなく、社会の有り様が大きく関係していることが明らかになってきました。ホームレス生活から抜け出すために何とかできないかとグリーンコープの生活再生相談室に相談したことが

きつかけで「抱樸館下関」と出会い、自立に向けて頑張っている元ホームレス者もいます。

「二人の路上死もださな...」一人でも多く、一日でも早く路上からの脱出を「ホームレスを生まな...」社会の創造を。これら3つのミッションを掲げ、そして、「あなたも、わたしも、おんなじのち」を合言葉に、北九州ホームレス支援機構は日々活動を展開しています。その取り組みに連帯すること。それが豊かな地域づくりをめざしているグリーンコープだからこそできる「ホームレス支援」だと言えます。

否応なく襲ってくる経済恐慌という嵐を、グリーンコープは組合員や地域の人々の相互の助けあいによって乗り越えていきたいと考えています。ホームレス問題を地域再生運動の一環とし、共に生き、やわらかく助けあえる社会をめざして取り組みをすすめていきます。

慢の食パンが れかわりました



8月小麦収穫直前の美瑛町麦畑

国産小麦パン作りへの挑戦

安心して食べられるパンを

グリーンコープは設立当初から、国産小麦にこだわり、安心・安全でおいしいパン作りを追求してきました。2007年には、食パンの原料小麦の品種が「春よ恋」100%になったことで、よりおいしいパンが実現できました。

さらに、2008年度は、グリーンコープ20周年記念として、食パンのリニューアルに取り組みました。グリーンコープ生協くまもとが中心となって製粉会社やパンメーカーと共に1年をかけて検討。この春、新しい食パンが完成しカタログGREENに登場しています。

グリーンコープの国産小麦パンの誕生から今回のリニューアルまでの経過と、さらに詳しく紹介いたします。

現在の国産小麦のパンは、食の安心・安全を求める時流を背景に、市場でも徐々にその割合を増やしています。しかし20数年前のグリーンコープ設立当初、「国産小麦ではパンは作れない」というのが世間の常識でした。

1980年代半ば、穀物の残留農薬の問題が浮上し、食の安心を求める意識が消費者の間に広まりました。同時に、日本の農業を守りたいという気運も高まり、当時のグリーンコープの前身生協である共生社は、1986年国産小麦を

使ったパンの開発をはじめました。しかし、国産小麦はグルテンの量が少ないため膨らみにくく、多くの組合員の支持を得るまでには至りませんでした。それでも国産小麦でおいしいパンを作るために試行錯誤を重ねられ、それはグリーンコープに引き継がれました。しかし、当時の市場は、外国産小麦で作られたパンが主流でした。

「顔の見える関係」がおいしい国産小麦のパンを作った

1993年、「安心・安全な国産小麦のパンを食べたい」という思いと国産小麦の増産の願いを届けに、組合員から生産への感謝の寄せ書き26枚と6万4千人の署名を持って組合員の代表が北海道を訪れました。そこで、春播き小麦の生産地の一つである美瑛町の生



美瑛町の生産者との交流がずっと続いている。2008年8月美瑛を訪問した組合員。大型コンバインの前で

産者と出会いました。当時、小麦は食糧制度の中で全量を国が買い取っていました。生産者は買取られた小麦がどう使われ、誰が食べているのか、まったく知りませんでした。

「すごい衝撃でした」。美瑛町農協の窓口として対応した野村さん(現JAびえい総務部長)は、当時を振り返ってこう言います。「自分たちの作った小麦を食べてくれる人に初めて出会ったのですから。いまだ

産者と出会いました。当時、小麦は食糧制度の中で全量を国が買い取っていました。生産者は買取られた小麦がどう使われ、誰が食べているのか、まったく知りませんでした。

それが毎年、グリーンコープの組合員と美瑛町の生産者との交流が続いています。美瑛町の生産者は発がん性の疑いのある農薬を使用しない、土壌分析に基づく施肥を行うなど、生産向上のための努力を重ねました。一方、組合員は計画的

いた色紙を全部貼って生産者ら関係者に一部始終を話しましたよ。それまで以上にいいものを作らなきゃ、という気運が高まったのは確かですね。

2000年、小麦は政府による管理から民間流通へ移行しました。同時に国産小麦の需要の高まりや新品種の開発により、市場では国産小麦パンを作る環境も年々整ってきました。

2002年に登場した「春よ恋」という品種は、国産小麦パンに一番適した品種と言われる小麦です。しかし、デリケートで扱いが難しい面もありました。グリーンコープでは、これまで国産小麦の製粉に携わってきた製粉会社とパンメーカーの技術と経験で、一つ一つ問題を乗り越えていったのです。

2004年から「春よ恋」小麦をブレンドするようになり、食パンの支持は飛躍的に高まりました。2007年、食パンの原料小麦は「春よ恋」100%になりました。モチモチの食感と小麦の風味がおいしいと、多くの組合員に利用されています。

グリーンコープ生協くまもと発 食パンリニューアル物語

単協による商品開発・リニューアルの取り組みは、2002年にスタート。以降6年、組合員がグリーンコープ商品をより身近に引き寄せる活動として定着してきました。

2008年度の食パンのリニューアルは、グリーンコープ生協くまもとが中心となって取り組み、アンケートや試食、検討の進捗などオールグリーンコープとして確認しながらすすめてきました。

「おいしい食パンを追求するために、くまもとは多くの組合員の意見を聞きながらすすめることが大切であると考えました。多くの組合員の意思が反映されるようにアンケートや試食を実施しました。

こうして約1年の検討を経て、ようやく「これこそがグリーンコープの新しい食パン」と言えるパンが完成、2009年度カタログGREEN1号で新登場しました。

基本コンセプトをしっかりと押さえて

2008年4月、リニューアルにあたって全組合員

も試作とモニター試験を繰り返しました。11月にオールグリーンコープとしての試食テストを行いました。比較テストでは現行品、リニューアル品、それぞれに支持がありました。リニューアル品が現行品を少し上回る結果となりました。それを踏まえた上でリニューアルをすすめてきました。

※太陽熱を吸収させて雪だけを早めるための炭や灰の粉末。春先に畑に播く

グリーンコープ自 さらにおいしく生まれ

グリーンコープ生協くまもと理事長 久米田 薫 さん



もともと、くまもとは、**食パン**の利用率という点では、グリーンコープ共同体の中で最下位、**食パン**の利用が少ない単協でした。私たち組合員はこの状況を認識し、だからこそ今回リニューアルに取り組み、パンをより身近に引き寄せたいという思いを強く持って、挑戦しました。

市販の国産小麦使用のパンの調査や試食サンプル検討に多くの組合員が参加。また、パンの学習会では、グリーンコープの国産小麦パンの誕生物語を聞いて、改めてその感動を共有しました。

1年をおとした取り組みで、おいしいパンができあがり、くまもとにっぽんとうに愛着のある商品となりました。**食パン**のおいしさを多くの組合員に伝えていきたいと思えます。

グリーンコープ生協おかやま理事長 坂口 陽子 さん



おかやまは、組合員にグリーンコープのパンのおいしさを伝えるため、これまで組合員のついでなどパンの食べ比べをしてきました。「モチモチして香りがいい」ととても評判がよく、多くの組合員から支持されています。

昨年8月、国産小麦の生産地の一つである北海道美瑛町を訪ねました。国産小麦は栽培が難しくかつたのですが、「春よ恋」に切り替えたことで生産が安定してきたと、生産者のみなさんも喜んでいました。

今回のリニューアルでますますおいしいパンができあがりました。昨年からのたりの兵庫県姫路市にあるパン屋さんか新しくグリーンコープのパンメーカーに仲間入りし、グリーンコープらしい顔の見える関係でパンを作っています。

(図B)

食パンリニューアルの基本コンセプト

- ①小麦の製粉方法の変更
原料小麦「春よ恋」100%使用のまま。現行よりふすまに近い部分を多く残す。これによって小麦本来の味と香りを引き出し小麦の香ばしさやモチモチ感を増加させる
- ②イーストの変更
品質劣化を抑え、イースト臭が抑えられ、小麦本来の香りをより引き出す
- ③ショートニングの変更
品質劣化を抑え柔らかさを持続させる。これによってトランス脂肪酸の含有率が減少(14%→23%→3%程度)

もっと愛される食パン作りをめざして

食パンは、たくさん種類のパンの中でも組合員からの支持が高い商品です。リニューアルにあたっては、「こんなにおいしいパンをなぜリニューアルするの？」という率直な声もありました。そのような中で、グリーンコープは**食パン**を、10年後、20年後も組合員に愛されグリーンコープを代表する商品にするために、リニューアルに取

パンメーカーより

グリーンコープのパンメーカー8社で協力して、食パンリニューアルに取り組みました。

「春よ恋」は、日本の土壌で育つ「日本人の嗜好に合った」小麦です。その小麦で作るパンは独特の風味と甘みがあり、もちりとした引きの強さが特長です。一般的にはパン作りには国産小麦は向かないと言われていますが、おいしさから言うと「春よ恋」が一番です。

品種としてはデリケートな面があり、パン作りにはコントロールが難しいところがありました。グリーンコープのパンメーカーは、乳化剤、防腐剤、イーストフードなどの添加物を使わず、長年の経験と技術で克服しました。今回の食パンリニューアルの基本コンセプトであるイーストやショートニングの変更によって、さらにおいしいパンになりました。



パンメーカーによる検討の様子

を対象に利用実態調査を実施しました。その結果から**食パン**を利用している理由は「安心・安全や原料へのこだわり」「しっとり感ともちもち感」「香りや飽きのこないおいしさ」であることがわかりました(図A)。

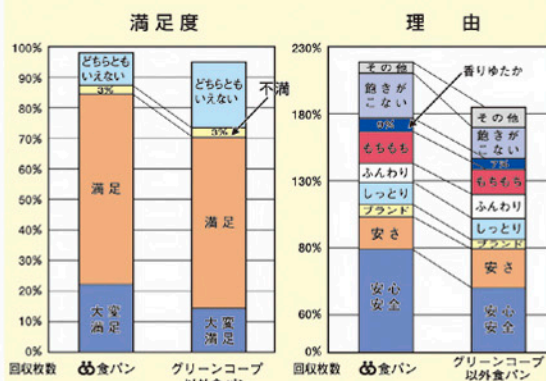
現行品への満足度と支持の高さが改めて実証されました。

利用の実態を踏まえて、リニューアルのコンセプトを「国産小麦の特長を生かした風味と食感、添加物をできるだけ使わない、そして飽きのこない食パンを追求

(図A)

食パンの利用実態調査

- アンケートの配布枚数は、260,215枚。122,531枚を回収。回答率は47.1%。
- 食パン**を利用している人は、「満足度」が高く、利用する理由として「安心・安全」を重視しているようすです。



国産小麦生産地のひとつ美瑛より

国産のパン用小麦の栽培は難しく、しかも農地が広いので収穫の時期はたいへんです。「ハルユタカ」という品種は雨が降ると穂が倒れて発芽し出荷できなくなったり、赤カビが発生することがあります。品種改良した「春よ恋」では、被害が減って生産が安定してきました。

グリーンコープさんとは小麦をとおした20年来のお付き合いです。自分たちが作った小麦を心待ちにしている組合員さんが応援してくれていることに、いつも励まされています。2008年からは米・美瑛産なつぽしなども出荷しています。これからもこのつながりを大切にしていきたいと思えます。

鳥越製粉より

「春よ恋」は製パンに適した小麦です。国産の小麦でのパン作りは難しいと言われていましたが、品種が改良され、吸水性が高く仕上がりがソフトになりました。たんばくの質もよいので製パンに重要なグルテンが形成されやすく、しっかりと生地が出来ます。

小麦粉の味は育った風土や品種によって変わりますが、国産小麦で作るパンは風味があつておいしいのが特長です。

今回、組合員の評価の高い食パンをさらにグレードアップするために、ふすまに近い部分を多く残した製粉方法に変更、小麦本来の味と香り、生地の弾力感がアップしました。



無蛍光...

自然な綿の色にこだわり続ける



グリーンコープで取り扱っている宮原タオルの製品(一部)

グリーンコープは、「安心・安全」という大きなこだわりの中に、「国産」へのこだわり、「無添加」へのこだわり、「無農薬」へのこだわりなど、たくさんのこだわりを持っています。そのこだわりこそが、グリーンコープそのものです。

今回はグリーンコープのこだわりの一つである無蛍光肌着や無蛍光タオルなど「無蛍光」がキーワードです。カタログキッズGREENで企画している無蛍光タオルメーカーである宮原タオル(株)(福岡県久留米市)を取材し、「無蛍光」のよさに迫りました。



専務取締役 宮原 朋代さん

グリーンコープは、肌着やタオルなど直接肌に触れるものの「安心・安全」は「無蛍光」であるとしています。無蛍光とは、製造工程中に蛍光増白剤を使用しないことです。蛍光増白剤とは、太陽光線の中の目に見えない紫外線を吸収して、目に見える青色の光(蛍光)に変えて見えるようにする物質です。染料の一種で黄ばみがちな繊維を白く見せます。しかし、グリーンコープは不必要な化学物質は使わない、というこだわりを貫いてきており、「蛍光増白剤」はその一つです。見

無蛍光肌着もそうです。タオルの素材は、もちろん「木綿」です。木綿はワタの種子から取れる繊維です。原産地はインドやアフリカ、繊維としては今か

綿のルーツ

約2000年前から使われていたと言われています。その後、世界中に広まっ

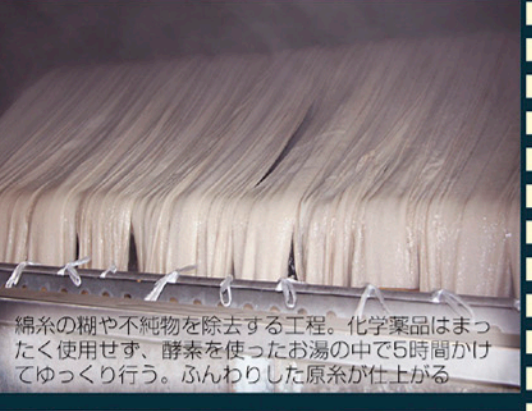
ら約2000年前から使われていたと言われています。その後、世界中に広まっ

はじまり

「あんしんなタオル」の始まり



島根県出雲市で紡績された綿糸。原料の棉花はパキスタン産やアメリカ産のものが多いという



綿糸の糊や不純物を除去する工程。化学薬品はまったく使用せず、酵素を使ったお湯の中で5時間かけてゆっくり行う。ふんわりした原糸が仕上がる



製織工程



縫製の工程。宮原タオルからの仕様に沿って、手作りで縫い上げていく

お詫びと報告

グリーンコープで取り扱っていた「九州産ブロッコリー」の検査結果、残留農薬は検出されませんでした

2008年11月初め、キャセイ食品(東京)が中国産の冷凍野菜(サトイモ・インゲン・ブロッコリー・カリフラワー・オクラなど)を国産と混ぜ、「国産」「九州産」として販売したという報道がありました。その中の中国産ブロッコリーがグリーンコープで取り扱っていた「九州産ブロッコリー」に混入している可能性があることが分かりました。

この件について、グリーンコープは組合員へ責任を負えない緊急事態であるとし、即座に供給をストップ、取り扱いそのものも中止しました

同時に、組合員の手元にある当該商品の回収とその返金を行う、きちんと残留農薬の検査を行い、その結果を組合員に報告する、などの対応を決めました。また、販売責任を明らかにするために、全組合員に「お詫びとお知らせ」のチラシを配布(3/2~7)しました。しかしその際、残留農薬の検査結果の報告を渡らしていませんでした。

「九州産ブロッコリー」の製品検査については、すでにメーカーによる「年1回の残留検査及び製造の都度の一般生菌数検査によると、問題がない」との報告を受けていました。そして、グリーンコープとしての残留農薬の自主検査を実施しました。306種類(321成分)の残留農薬検査の結果、すべてにおいて検出されませんでした。以上、お詫びとご報告です。

へのこだわりをカタチにしているメーカーの一つが宮原タオルです。カタログキッズGREENには宮原タオルの無蛍光タオルの製品9アイテムを企画・案内しています。

専務取締役の宮原さんは、無蛍光へのこだわりを「ある日、自社で製造したばかりのタオルが水を吸わないことに気が付いたので。その原因を探ると、タオル製造時に使用する薬品が関係していることを知り

に点在している業者へ自社の理念やこだわりを分かってもらうためにはきめ細かなコミュニケーションが欠かせないとのこと。 「あんしんなタオル」の特長は、綿糸の糊や不純物除去工程で糊抜き酵素や精練酵素(どちらも納豆菌の一種)を使って糊及び不純物を取り除いていることです。一般のタオル製造工程で欠かせない漂白や染色の工程もなく、もちろん蛍光増白剤や柔軟剤、抗菌剤も使いません。だからこそ、綿の中にある成分(コットンワックス)が残り、綿本来の柔らかさが維持され、吸水性がよいのが特長です。「無蛍光だから、洗濯にはせっけんを使ってほしいのです。合成洗剤は無蛍光タオルを台無しにしてしまいますから」。宮原さんは、「あんしんなタオル」と一緒にせっけんをすすめています。

学び、交流を深めよりよい作物作り

グリーンコープ青果生産者の会 2008年度技術交流会



心強いパートナー
 グリーンコープ青果生産者の会は、グリーンコープに野菜や果物を納入している生産者グループの組織です。会員は72団体。九州全域と沖縄県から北海道にまで広がっています。果菜（きゅうりやトマト等）、葉菜（キャベツやほうれん草等）、根菜（パレイシヨ

「土作りが生かされるBW技術の実践」
 磯田有治さん
 BW技術とは、自然の生態の中で水が大地に染み込み、ろ過されると同時に土壌中の微生物や岩石のミネラルを含み、沢の水となつて再生することに着目した技術です。この自然界にある仕組みを人為的に作り、養豚や酪農、養鶏などの糞尿の処理等に活用されています。BW技術を活用して作られる完成度の高い堆肥や生物活性水はミネラルや微生物が豊富で、有機栽培の土壌作りに適しています。家畜の糞尿を使った堆肥作りは肥料の自給にもつながり、農業経営に貢献でき、安定した作物栽培が実践できます。BW技術協会

有機栽培基礎講座
 「もっと品質のよい作物を、もっと多く収穫するために」
 小祝政明さん
 渡り鳥がみかんを食べなくなったと言われている。その理由は、みかんの色も味も薄くなっており、栄養価も50年前のみかん1個の栄養価が今のみかん142個分にあたるそうです。化学肥料の多用で土壌の養分がなくなっていることが原因で、他の野菜も同様な状況です。これからの農業にとって高品質なものを安定的に栽培し続けることが必要です。そのためには、作物の生理をよく知って、有機栽培を実践することです。まず、正しい土壌分析をして、圃場の状況を把握し、施肥計画を立てます。植物にとって大切なものは、バランスの取れた栄養です。栄養を土から吸い上げ、光合成を活性に行う

「とても役に立つ」
 「土壌分析はしていたけれど、体積方の分析で把握して、対応しなくては思いました」。産直人参などと、健康でおいしい野菜や果実になります。土作りで大切なことは、炭素や窒素などをバランスよく含んだ堆肥で、微生物が十分に空気を含んだほこほこした土を作ることです。さらに必要なものは、酵素とミネラルです。これまであまり意識されておらず、ミネラルは植物に吸収されないと知られていましたが、現在は吸収することが実証されています。しかし、酵素やミネラルは過剰になつても欠乏しても問題が出ます。何がどのくらい必要なのか正しく知ることも必要です。「感」に頼る農業では、限界があります。おいしい野菜作りをして、多くの人に食べてもらい、農家の経営が改善されることは大切なことです。

「とても役に立つ」
 「土壌分析はしていたけれど、体積方の分析で把握して、対応しなくては思いました」。産直人参などと、健康でおいしい野菜や果実になります。土作りで大切なことは、炭素や窒素などをバランスよく含んだ堆肥で、微生物が十分に空気を含んだほこほこした土を作ることです。さらに必要なものは、酵素とミネラルです。これまであまり意識されておらず、ミネラルは植物に吸収されないと知られていましたが、現在は吸収することが実証されています。しかし、酵素やミネラルは過剰になつても欠乏しても問題が出ます。何がどのくらい必要なのか正しく知ることも必要です。「感」に頼る農業では、限界があります。おいしい野菜作りをして、多くの人に食べてもらい、農家の経営が改善されることは大切なことです。

2月20～21日、福岡県久留米市で、グリーンコープ青果生産者の会2008年度技術交流会が開催され、約130人の会員が集いました。初日の前半では「自然学を实践する」土と水の学校「有機栽培基礎講座」が西日本BM技術協会耕作部会との共催で開催されました。有機栽培基礎講座の概要の説明等が磯田有治さん（BM技術協会事務局長）、有機栽培の基礎理論が小祝政明さん（土と水の学校）講師・（株）ジャパンバイオファーム代表取締役）からありました。後半は、各部会ごとの交流会と全体会。翌21日には、開催地周辺会員の農地の視察が行われました。

で行っている「土と水の学校」では、BM技術で地域の土と水を再生し、身近な資源を有効に活用し、高品質で多収栽培方法の実践的な学習を行っています。現在、学習した多くの農家が実践し成果を上げています。



真剣に聞き入る参加者

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク 車両用マグネットシートのデザインが決定



応募作品総数81点の中から厳正な審査の結果、高城豊さん（東京都）の作品が選考されました。また、グリーンコープに応募された作品の中から、原浩美さん（グリーンコープやまぐち生協）の作品をグリーンコープ賞として、決定しました。

私の好きなグリーンコープ商品
官い・たい
 投稿欄
 いなくてホンノリ寂しい思いました。ある日、スーパーの帰り道、げんき君のマークのついたトラック発見。びっくりした。即、「加入します」と伝えると配達のお兄さんも驚いたようす。久しぶりに届いたなつかしのネグロスバナナ。アレ？バナナが少し大きくなって、味も少し変わった気がする。母が亡くなりずいぶなつた。子どもも1人から2人になり、グリーンコープも関西にきて、周りの状況も変わった。ネグロスのこと、大好きな母を思い出しながらまたパクリと食べる。

ネグロスバナナは母の思い出
 長男が赤ちゃんの時、熊本でグリーンコープに加入した。当時、我が家のテーブルには、ネグロスバナナが置いてあり、福岡の実家のテーブルにもバナナが常にあった。気がつけば誰かがちぎってパクリと食べた。「ちよつと食べるのにこのサイズがいいんよ。甘すぎんで食べやすいんよ」と母はよく言っていた。主人の転勤で大阪に来た時はグリーンコープがなく、ついで料理教室に参加することもなし、友だちも

投稿募集中

- グリーンコープ誕生20年よせて
 - 私の好きなグリーンコープ商品
 - 400字程度 ●月切 毎月末
 - 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
 - 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。
- 〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
 グリーンコープコミュニケーションワーカース連(REN)「共生の時代」編集部 宛
 FAX 092-481-7876
 Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

いま地域を考える

No.188

歌って 働いて 普通に暮らす



知的障害者通所授産施設「なのはな」のみなさん。後列左端が寺田さん。その右隣が藤崎さん



▲木の温もりが人をなごませるオーガニックレストラン「遊楽」



手入れがゆき届いた農場▶

社会福祉法人 **なのはな村**

霧島連峰をはるかに望む自然豊かな宮崎県都城市。その一角に社会福祉法人「なのはな村」の農場が広がる。そこで生産された農産物は地域へ届けられ、直営オーガニックレストラン「遊楽」の食材にもなる。

障がいのある人もない人も支えあって生きる日々を、なのはな村理事の藤崎芳洋さん、なのはな村サポーター寺田篤子さん（共にグリーンコープ生協みやざき組員）に聞いた。

障がいをもった人たちがホームを作りた

なのはな村施設長の藤崎さんが福祉にかかわるようになったきっかけは、学生時代に通った精神病院で補助看護師のアルバイトをしていた。「人間とは何か」という深い問いを投げかけてくる職場環境に興味を覚えていた。一方、当時の精神病院のありようは管理体制が敷かれており、人間の尊厳などないに等しいものだった。特に知的障がい者や自閉症の人にとって、病院が居場所であるとは思えなかった。アルバイトは3年続けたが、事態はそう簡単に改善されるわけでもない。それなら知的障がい者のための「村」を作り、彼らと共に生きようと藤崎さんは決意を固めた。「村」、つまりめぐりあう共同生活の作り方は長崎県の「なすな園」を模した。なすな園は主宰者である近藤原理さんが自宅を開放し、知的障がい者7人と土を耕しながら共に生活するというスタイルで、その

「なのはな村」はたたくさんのスタッフ、サポーターによって支えられている。都城市の自宅で長年ピアノ教師を続け、誰にも親しめるオペラを普及させてきた寺田篤子さんもサポーターの一人だ。「なのはな村」との付き合いは、長らく野菜やその加工品を利用する立場に留まっていたが、その関係が2007年春大きく進展した。オーガニックレストラン「遊楽」でまた6月のフォルクローレコンサートへ向け寺田さんがレッスンをしていた時、側にいた通所者に「一緒に歌ってみないか」と声をかけてみたのがはじまりだった。音楽とは文字通り「音を楽しむもの」という信念を持つ寺田さんは、歌うこ



盛りあがった2008年のクリスマスコンサート

「は農場の野菜を宅配してまわる会員制システム。『麦ふみを楽しむ会』や種々のまつりなイベントも次々企画した。藤崎さんのそうした企画力、人を巻き込んでいくという才能は天性のものだ。同じ志を持つ仲間も全国に散らばっている。

手法は当時としては画期的なものとして紹介されていた。「障がい者も地域の中で、あるがままに、あたりまえに暮らす」という平らかな思想に藤崎さんは強く惹かれた。その後紆余曲折を経て、その夢がカタチとなって姿を現したのが、1987年設立の共働農場「なのはな村」だ。場所は故郷である都城。藤崎さんはすでに30歳半ばを過ぎ、夫婦で畑を耕しながら知的障がいの人を預かるという生活も経験していた。農場の土地は父親所有の山林を開墾し、1・2ヘクタールの畑、30アールの田んぼをつくった。採卵用の鶏3百羽、烏骨鶏40羽も飼った。そこに10人の障がいのある人たちが預かり、大家族のように本格的な自給自足の生活を始めた。もちろん農薬、化学肥料は使わない自然農法でだ。農場の名前「なのはな」は陽光を浴びて咲き集う菜の花畑のイメージから命名した。「菜の花って1本じゃなく群れになって咲くでしょ」と藤崎さん。共生への願いを込めた名前だった。地域との交流も開始した。「なのはな村」の野菜を食べる

「なのはな村」に強力サポーター出現

「なのはな村」はたたくさんのスタッフ、サポーターによって支えられている。都城市の自宅で長年ピアノ教師を続け、誰にも親しめるオペラを普及させてきた寺田篤子さんもサポーターの一人だ。「なのはな村」との付き合いは、長らく野菜やその加工品を利用する立場に留まっていたが、その関係が2007年春大きく進展した。オーガニックレストラン「遊楽」でまた6月のフォルクローレコンサートへ向け寺田さんがレッスンをしていた時、側にいた通所者に「一緒に歌ってみないか」と声をかけてみたのがはじまりだった。音楽とは文字通り「音を楽しむもの」という信念を持つ寺田さんは、歌うことを人に強くない。ところが、みんな思いのほかノッてくれた。瞬間に旋律も覚えてしまった。驚いた。中でも自閉症の洋一君(29歳)は七色の声の持ち主というところが分かった。男声でも女声でも自在に操ることができた。またユキコさん(32歳)の場合、言葉は出ないが音程はしっかりとれることが分かった。みんな寺田さんが声をかけてくれるのを待っていたかのように、それ以降は前にもまして生き生きと自分を表現するようになった。言葉も増えていった。「歌うことって楽しい」、そう感じているのが傍目にもみてとれた。それから2ヵ月練習しただけでコンサートでデビューを果たす。2008年秋には谷川賢作コンサートで「少年時代」を披露した。寺田さんは学生時代、音楽療法に関心を持っていた。35年も前のことだ。当時すでにアメリカでは確立していた精神療法だったが、日本ではまだ足場がなく結局あきらめ

2009年2月の組合員数 **400039人** (2/24現在) リユース リサイクル データ 2009年1月分

Table with 4 columns: 牛乳びん, リユースびん, トレー, モウルトパック. Includes recycling rates and counts.

放射能汚染測定結果報告(185) 2009年1月

Table with 5 columns: 検体名, 産地, セシウム134, セシウム137, 合計ベクレル/kg. Lists various food items and their radiation levels.

た。その思いが今頃果たされるとは、寺田さん自身も不思議な心持ちだった。現在は週に一度「なのはな村」でレッスンをを行う。彼らも喜んでくれるが、感情を素直に表現する彼らにむしろ寺田さんが癒されている。今改めて問う「福祉とは？」 偶然だが、藤崎さんも寺田さんとも同い年だ。人と人との関係において管理するものもされるのも嫌い、という点も共通している。だからこそ寺田さんが洋一君に歌をリクエストすると、彼は虚空をみつめ、「もののけ姫」を美しいテナーで歌ってくれるのだ。藤崎さんは言う。「特別なことをしているわけではなく、みんなが百姓やっただけです」「結局、福祉って自分に絶望しないための世の中をつくるはたらきなんじゃないでしょうか」。その高そうなハードルが、ひょいとまたげる高さで「なのはな村」にはある。